

平成30年度
大分市水道事業・公共下水道事業経営診断書
意見報告書

平成31年1月
大分市上下水道事業経営評価委員会

上下水道局の事務事業評価の取組みは、事業運営をより客観的に評価するために、平成27年度から経営指標を用いた「経営診断書」という形に見直され、事業経営に活用するようになっていきます。

平成29年度取組みについて上下水道局の内部評価が「平成30年度大分市水道事業・公共下水道事業経営診断書」としてまとめられ、当委員会に外部評価としての意見を求められましたので、今後の事業のあり方や方向性について意見や要望を報告書にとりまとめました。

1. 経営分析・計画評価についての意見・要望

<p>全 般</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経営分析全般について、水道事業は整備がほぼ終わり、維持管理・更新の時代に移行しているのに対し、公共下水道事業は未整備地区の整備を進めているといった各事業の現状を踏まえた諸指標や経営状況が受ける影響や今後の見通しについて、わかりやすく記述すること。 また、「どのような理由で指標の評価が低いのか。」「改善できるのか、それともできないのか。」「一時的な要因で低くなっているのか、構造的な原因があるのか。」など、より市民にわかりやすく解説すること。 上下水道事業の統合によるメリットをさらに活かした効率的、効果的な事業運営に取り組んでいくこと。特に、両事業で運用している各種システムについて、ソフト、ハード両面から集約化を図ることについても着実に進めること。
<p>水 道 事 業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 有収率が他都市に比べて低いのは、漏水が主な要因であることから、有収率の向上に向けて、漏水防止につながる管路の更新に関する投資をすること。 経営分析、計画評価の各指標は、いずれもおおむね順調に推移している。今後も経営の安定化や経営戦略に掲げた管路の耐震化などの取組みを進めること。
<p>公 共 下 水 道 事 業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 収益性に関する指標について、行政側の会計ルールに沿ったものだけでは市民にわかりにくいいため、経営の実情が理解できるように工夫すること。また、今後、経営状況が改善するのかどうかについて、より具体的に示すこと。 下水道使用料の増収に向けて、人口密集地の整備や集中浄化槽団地の引取りなどの整備促進と併せて、未接続者対策として水道大口使用者などに対する接続促進を図ること。

2. 大分市水道事業経営評価委員会委員名簿（平成31年1月1日現在）

	氏名	備考
委員長	大呂 興平	大分大学経済学部教授
副委員長	荒金 一義	大分市自治委員連絡協議会会長
委員	村松 政幸	公認会計士
委員	木内 純子	不動産鑑定士
委員	岩崎 美紀	中小企業診断士
委員	佐藤 典保	株式会社大分銀行東支店支店長
委員	秦野 恵子	大分商工会議所女性会理事
委員	葛西 満里子	特定非営利活動法人 緑の工房ななぐらす理事長
委員	佐藤 秀治	一般公募
委員	秋吉 美帆	一般公募